



創立記念日によせて

光の園保育学校の幼児クラスではお誕生会に保護者の方を招待しています。こどもたちは皆で祝うお誕生会、特に保護者の方が一緒にすごせる時間がとても楽しみで、何日も前からワクワクドキドキしている様子が見られます。お誕生会では、インタビューもあるのです。保護者の方にとっては、お子さんの成長と共に、たくさんの仲間に関わり笑顔で過ごす様子に安心や喜びを感じる時ではないでしょうか。

こどもたちは自分が生まれたときの話、小さかったときの話に興味を示します。大人になっても、周囲の人のいろいろな記憶、気持ちがきけるのでおもしろいと思うことがあります。自分が大切にされている、いろいろなことがあって今ここにいる、そのような繋がりを感じる大切なエピソードが詰まっているからだと思います。

さて、光の園保育学校の創立記念日は1928年9月6日となっています。関東大震災の直後、神戸で社会事業活動を行っていた賀川豊彦が3名の青年と共に上京し、特に被害の大きかった地域に設けた「光の園」託児所を前身としています。この託児所は1年ほどで東京都へ移管されますが、その後現在の場所で「光の園保育学校」として事業を開始しました。こちらが創立記念日となっています。単にこどもたちを預かる託児ではなく、保護者の方や地域と共に育ち合い生活の向上に取り組む想いは創設から変わらない願いであり、一日一日を歩んでいるところです。戦争で事業が中断したり、東駒形教会・本所賀川記念館と共に現在の建物になったりと変化はありましたが、ずっと変わらない砂の園庭でのびのびと遊び、栄養を大切にされた温かいお食事を日々いただき、人生の中では短い期間ながらも大きく成長しあう居場所となっています。みんな必ずいつか光の園から新しいところへ進んでいきます。長い歴史を多くの方に支えられながら歩んできたように、今後もどんな形でも愛され関わり合っているということを経験することができるよう、気持ちを新たにしています。

園長 佐々木奈津絵

「わたしたちは、見えるものではなく見えないものに目を注ぎます。」コリントの信徒への手紙4章18節



<9月の予定>

3日(木) 誕生会

7日(月) 創立記念礼拝

☆日程非公開避難訓練



<署名とカンパのお願い>

毎年「子どものよりよい育ちと子育て支援の充実、保育園や認定子ども園の保育をよりよくするための要望」の署名を、全国私立保育園連盟を通して内閣総理大臣宛に提出しています。

内容をよく読んで署名とカンパのご協力をよろしくお願いします。×切9月30日(水)

9/21(月)～9/30(水) 秋の全国交通安全運動
 これからの季節、特に夕方の交通安全にも気を付けていきましょう。



つぼみぐみ（0歳児）

～手作りおもちゃ特集～

つぼみ組の子どもたちの成長や興味、発達に合うよう、保育者が作ってきました。今回はこれまでに作ったものを紹介します！



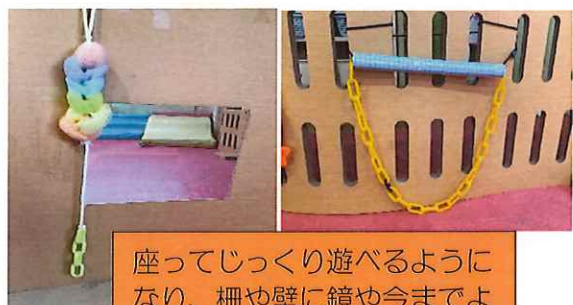
指でつまめるようになると、紐を引っ張る、ゴムをはじくことができます。指先の刺激になるよう、触り心地の違う素材にしたり、カラフルにする、音が鳴るなどしています。



目で見えた物を追う、聞こえる方を向くことができると、透明な入れ物に動く、音のする物を入れたおもちゃで遊んでいます。手に持てるようになると自分で持って中身を動かしたり音を鳴らしています。



指先にしっかり力が入れるようになり、マジックテープから剥がす、スイッチを押す、長いチェーンやつながった布を引き出す、大きな容器を持って中の「ウニ坊主」が変わった動きで落ちてくるのを見たり、洗濯ネットとペットボトルを繋げた物にボールを入れてたまると一気に下から出るのも喜びます。



座ってじっくり遊べるようになり、柵や壁に鏡や今までより力を入れて引っ張るおもちゃを作りました。鏡で自分や友だちを見るのも好きです。



これからは…

自分で操作すると変化したり、移動することがわかるようになり、ボードにライトやスプリング、電卓等を取り付けて、繰り返し遊べるようなおもちゃを制作中です。他にもワクワクするような物を考えていきますね！



夏にひんやりした気持ちよさ、水や氷、中の物の動きや感触を、手だけでなく、足、全身で味わえるようにしています。布団圧縮袋には大きめのプッシュポップが入っています。ジップロックにはシールの魚やホログラムの海藻がユラユラ。傘袋は縛ってそれぞれに違う色の色水を入れました。



もも組
(1歳児)

〇〇. あわあわ〜. 〇〇

水あそびの途中から固形石鹸の削ったものを入れて保育者がバシャバシャ泡立てると大喜び。回数を重ねるごとに保育者の真似をしてみんなでバシャバシャ。みんな泡を作り出せるようになってきました☆その泡に触れて、カップに入れたり、手の平いっぱい泡を乗せてみたりしながら楽しんでいましたが、ある日、Hさんが窓にヌリヌリ…そこでスポンジを出してみると、玩具をまるでお皿洗いかのように洗ったり、お風呂に入っているかのように腕をゴシゴシ洗ったり、雑巾のように絞ってみたり。スポンジというアイテムを加えただけですがアイテム一つであそび方が変わっていき、その展開の様子が面白かったです☆近年の気候からもう少し、水遊びもできそうなので、色々な素材を使いながら楽しめるようにしていきたいところです！〇〇. .. 〇〇. 〇〇〇
〇. 〇〇. .. 〇〇〇

さくら組
(1歳児)



「小麦粉粘土コネコネ♪」

小麦粉粘土を子どもたちの前で作りました。ボウルに入った沢山の薄力粉を見てAさんは、「おやみたーい！」と話していました。「この粉に水を入れてコネコネすると粘土が出来るよ」と伝えてその場でこねるところを見せると、「せんせい、がんばってー！」と子どもたちがパチパチ拍手をしながら応援してくれたので、保育者も力がみなぎります！水を入れて混ぜて完成すると、「ねんどちょうだい！」と集まりました。Bさんは粘土を細かくちぎって机に並べて、Cさんは「へび、できた！」と長いへびを作っていました。Dさんが「せんせい、アイスつくってー」と言っていたので、粘土をへびのように伸ばしてクルクル巻きながら一生懸命ソフトクリームを作って渡すと、隣で見ていたFさんが「・・・うんち」と呟いていました・・・(笑) 確かに、似ていたかもしれません。まだまだ、暑い日が続きますが室内あそびで色々な感触あそびをこどもたちと楽しみたいと思います！次は、どんな子どもたちのつぶやきを聞くことが出来るか楽しみです。

☆とろとろスライムに夢中です☆

3歳児クラスの友だちと一緒にあそんだ時、スライムに興味を持った子どもたち。触らせてもらおうと“ぷにぷに”でとろりとして、初めての感触に驚く姿がとても印象的でした。後日、子どもたちから「スライムやりたい！」と声上がり、早速やってみることにしました。タライに材料を入れて保育者が混ぜていくと、とろとろのスライムが！手に取ってみると「ぺたぺたしてる〜！」「わ〜とろとろんになっちゃった〜！」と夢中になっていました。スライムの魅力の虜になった子どもたちでした！



・チャレンジする気持ちを大切に・

肋木あそびを楽しんでいる子どもたち。ある日、Aさんが1番高い場所まで登りました。空洞になっていて中に入れるようになっているので「中に入ってみない？」と声をかけると「やめる」と一言。ですが興味はあるようで、その視線は肋木の内側を見ていて、「はいりたい」でも「こわい」というAさんの葛藤も見られました。しばらくすると「やる！」と言ったかと思うと、ゆっくりと片足を持ち上げて跨ぎます。高い場所で体の向きを変えたり跨いだりすることは怖いし、勇気がいるものです。時間をかけて見事に内側へ入ることに成功しました！『できた！』という成功体験が子どもたちの自信に繋がることを願っています。

2歳児クラス
(たんぽぽ・すみれ組)

ちゅうりっぷ組
(3歳児)

不思議がいっぱい

赤と青を混ぜたら紫になった～！と楽しそうにおしえてくれたSさん。2歳児クラスの時に水移しをしていたあそびが3歳児クラスになると色の変化に興味を持つようになりました。2つのカップにそれぞれ好きな色水を入れ、それを混ぜて変化を楽しんでいます。はじめは好きな色を選んでいたのですが最近では混ぜた後に〇〇色にしたいから△色と□色をカップに入れてみよう、ピンクにしたいから…何色と何色を混ぜたらいいのかな？と考えたりする姿が見られたりと毎日知的好奇心満載の子どもたちです。知っているようで忘れている色の変化。青と黄色を混ぜたら何色になるかな？などお子さんと一緒に考えてみるのも楽しいと思います！

★宝箱☆

突然の大雨と雷！驚いたYさんが「お空が怒っちゃった。誰とケンカをしたのだろう」と心配をしてくれました。優しい一言に心も身体も温まりました。



ばら組
(4歳児)

生き物との出会い、見送り、別れ

この夏はたくさんの生き物に出会い、飼育に挑戦しているばら組です。

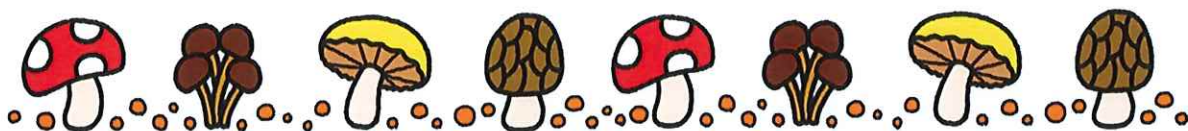
夏前からダンゴムシを飼い始めたことをきっかけに、カタツムリ、青虫、飼いたかったヤモリ、トンボ……様々な生き物たちが保育室に登場しました。

以前、ダンゴムシを連れて帰るためのカゴの扱いが元気良すぎて、全滅してしまうという経験をした子どもたち。そこから、生き物は「優しく丁寧に扱う」ことを学びました。また、飼育するためにはそれぞれの生き物に合った環境やエサが必要だということも知り、子どもたちなりに調べたり、保育者と一緒に詳しく調べたりしながら、ダンゴムシやカタツムリ、青虫を飼育しています。しかし、環境を整え、お世話をしているにもかかわらず、カタツムリが死んでしまうこともありました。命を育てることはそれほど繊細で、「生きていることは当たり前ではない」ということを、子どもたちなりに感じていたようです。

そんな中、ばら組にやってきたヤモリとトンボ。子どもたちには「飼ってそばに置いておきたい」という気持ちがありました。しかし、エサを用意することが難しいことや、とても繊細な生き物だと知ると、相談して「逃がしてあげよう」と決断していました。大切だからこそ、そばに置いておくのではなく、自然に返してあげる。そんな選択ができたことにも、これまでの経験からの成長を感じました。これもひとつの愛ですね。

小さな小さな命を通して、成長を喜んだり、天国へ見送ったり、あえて別れを選択したりしながら、命と向き合った夏になりました。生き物が大好きな子どもたちだからこそ、大切な学びだったと思います。





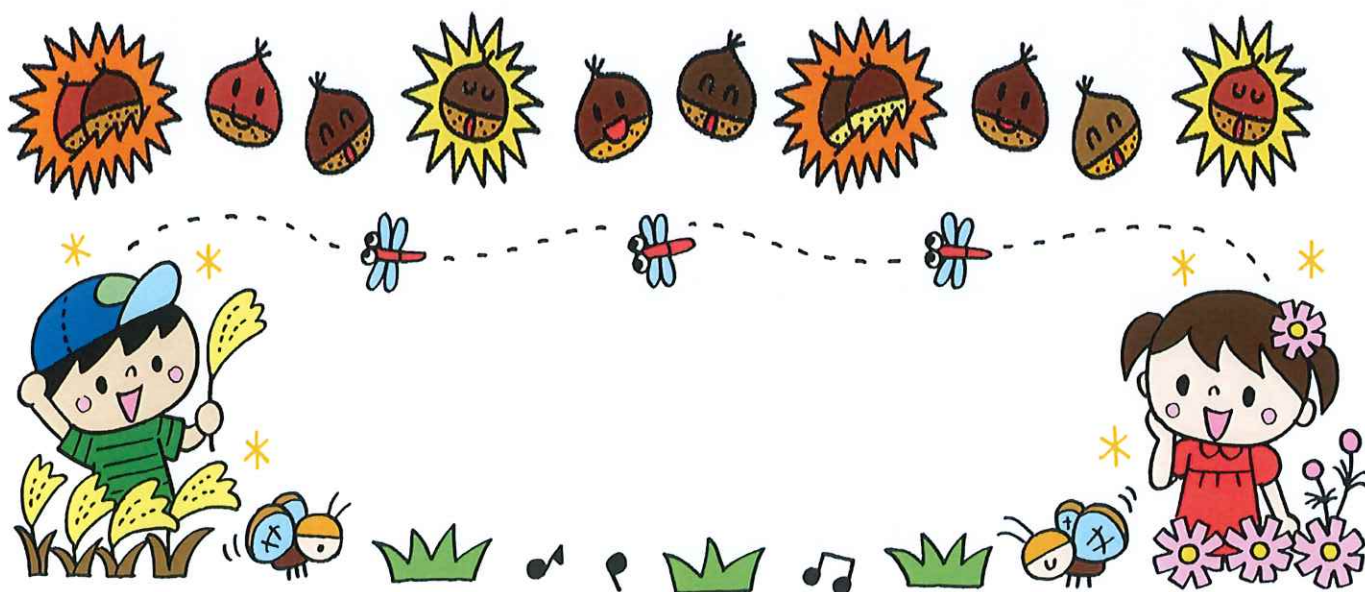
ゆり組
(5歳児)

新しいグループの名札作り

まだまだ暑い日が続いていますが、少しずつ秋の気配が近づいてきたことも感じます。この夏を過ごして、さらに子どもたちが心身共に成長していることを感じます。

先日、いつもとは違った緊張感が部屋の中に立ち込める中、新しいグループの発表をしました。一人ひとり自分の名前が呼ばれると照れたような、嬉しいような表情で新しいグループに向かっていき、メンバーがそろそろ大盛り上がり…。早速グループの名前を話し合ってもらいました。その日に決まらないグループもありましたが、時間をかけてお互いの意見を伝え合い、無事に「ぱんだ」「あいす」「ふじさん」「くらすし」の4つのグループ名が決定しました。

グループの名前が決まり、今度は初めての共同作業で名札を作りました。ぱんだグループは、それぞれがイメージするパンダを一人ずつ描いていました。途中「描けない!」と言う友だちもいましたが、パンダのどの部分なら描けるのかを他のメンバーが聴き、描けないところは手伝って、名札を完成させていました。くらすしグループは、それぞれが好きな寿司を順番に描いていき、おいしそうな名札が出来上がっています。ふじさんグループは、表に富士山の絵を描いて裏にそれぞれのマークを描いて仕上げていました。あいすグループは、みんなの好きなアイスに加えて、メンバーの似顔絵を描いていました。本当に色々な方法をそれぞれが考え、どのグループも一人ひとりを大切にして、名札を作ってくれました。これからもお互いの存在を大切に、仲間と協力する喜びをたっぷりと感じていきたいと思います。





はやり目というように、目にも感染症があります。流行性角結膜炎はアデノウイルス感染症の一つで、目やにが出る、目が赤い、まぶたが腫れる、目に異物感がある、痛い、痒い、のような症状が特徴です。アデノウイルスは型が何種類かあって型によって診断名も症状も違いますが、感染力が非常に強いことは共通しています。目に症状が出ると、目やにだけでなく涙からも接触感染をおこすので、子どもの目やにを拭ったり顔をめくったりした場合は大人も感染しないように手洗いが必要です。治癒するまで何日もかかってしまうため、症状が出たら早めの受診をお勧めします。



感染症というと熱や咳のイメージがありますが、目の充血のように目の症状がでることもあります。かかりやすく治りにくい病気なので、目の症状にはご注意ください。

おしょくじ

非常食の準備

9月1日は防災の日です。非常食には、水・米(アルファ米)・パン・缶詰・レトルト・ビスケットなどがあげられます。非常食としての備えも大切ですが、プラスαとして子どもが日常的に食べ慣れているビスケットやせんべいなどの菓子類なども賞味期限ごとに買い替えをしてストックをしておきましょう。災害時には、子どもは環境の変化により精神的に不安定になるため、食べられない非常食では心身を満たすことが難しいことも。食べられた菓子類が心を癒し、命を救うことに繋がります。



中秋の名月『お月見』



中秋の名月を『十五夜』ともいいます。十五夜は、秋の美しい月を見ながら収穫に感謝する日と言われ、十五夜には15個のお団子をお供えします。お月見に欠かせないお団子は、白玉粉や上新粉で作ります。白玉粉で作る時は、水の代わりに豆腐を入れるとなめらかになり、食べやすくなります。お月様の見えるところにお団子と、秋に収穫される果物やススキを備えて、感謝と祈りを捧げましょう。



小学生と交流しました

夏休み中は小学4、5、6年生を対象とし、延10人のボランティア小学生が光の園に来てくれました。1～5歳の各クラスで受け入れ、(子どもたちもお兄さんお姉さんも)楽しく交流できました。小学校の冬休みなど、また機会を設けていきたいと考えています。

今月のやまびこは
ありませんでした。



おひさま ふんこ

「なみだは にんげんのつくる いちばん小さな海」*

寺山 修司

ずーっと昔の一歳のクラスで、涙が出ると自分の顔を鏡で確認しにいく子がいました。

泣いている顔を見たら余計に悲しくなるのでは？と思っていたのですが、私の友人にも「泣いている自分の顔を鏡で見る」という方がいたので理由を聞いてみました。

「鏡にうつった泣いた自分を見て、あぁ、私今泣いている!! 私、とっても悲しいんだわ」って確認するの。

悲しみに浸るのよ。」

涙の姿を鏡にうつしていたあの子もきっと、涙の海にしっかりと浮かんでいなかったのでしょうか。

今年の5月に本屋さんの絵本コーナーで目に入ってきたのが

「なきむしなきこちゃん」ザ・キャビンカンパニー 福音館

キラッキラの涙のしずくを瞳に輝かせる少女の表紙に思わず手に取りました。

冒頭の寺山修司さんの詩で始まるこの物語はまさに涙の海を航海 voyage する女の子のおはなし。読み終えろとはんわり塩味を感じる……そんな一冊です。

(Tatumoto)

* 寺山修司 少女誌集より

